

抜粋

改定・かながわのみちづくり計画



海老名南
ジャンクション

道路整備計画

自動車専用道路網の整備



県道74号
(小田原山北)

道路活用計画

交差点の改良(施工前)

(施工後)



橋りょう点検

土砂崩落対策

日常的管理

道路維持管理計画

●はじめに

道路は、県民生活の利便性向上や地域経済の活性化、さらには災害時における県民の安全・安心の確保にも寄与する重要な社会基盤です。

県では、2007(平成19)年に策定した「かながわのみちづくり計画」に基づき、選択と集中を図りながら道路事業を進め、2015(平成27)年3月にさがみ縦貫道路などが開通し、渋滞改善等の効果が現れはじめています。

しかし、県内では、新東名高速道路をはじめ、つながるべき道路がなくなっているなど、引き続き道路事業を進める必要があります。特に、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が目前に迫る中、その効果を県内に波及させるため、より一層の選択と集中を図り、自動車専用道路や観光地などにアクセスする道路の整備を進めることが重要です。

さらに国家戦略特区など3つの特区指定を受け、国際競争力の強化に向けた人・モノの円滑な移動の確保や、東日本大震災を踏まえた災害への対応力の強化が必要です。

また、交差点の改良や、スマートインターチェンジの設置など、既存の道路を有効活用する工夫や、外国人にも分かりやすい道路案内標識とするなど、道路をより使いやすいくする取組みが必要です。

一方、県内の道路は高度経済成長期に集中的に整備され、建設後50年を経過する施設が、今後、急激に増加することから、老朽化対策を着実に進める必要があります。

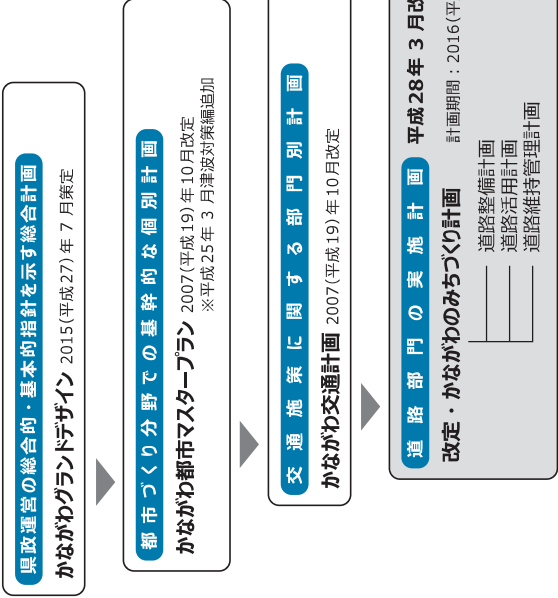
こうした本県の道路を取り巻く状況の変化に、厳しい財政状況の下、より効率的・効果的に対応するため、このたび計画の見直しを行いました。

計画の見直しでは、道路をより使いやすいくするために、今ある道路を最大限に活用する取組みを新たに加えました。

また、地域のまちづくりの進展などにあわせて、計画の熟度を高めていくべき重要な道路を計画に反映させて、将来を見据えた人・モノの流れを支えるまちづくりに取り組むこととしました。

●計画の体系

本計画は、本県の交通施策に関する部門別計画である「かながわ交通計画」を支え、2016(平成28)年度から2025(平成37)年度までを計画期間とする、道路部門の実施計画です。



●計画の変遷

かながわのみちづくり計画

●平成19年10月策定

道路の整備と維持管理は、本県の道路行政の両輪として、相互に関連しながら取り組むことが重要であることから、道路整備計画と道路維持管理計画を総合的なみちづくり計画「かながわのみちづくり計画」として策定しました。

●平成22年3月改訂

平成22年4月から相模原市が政令指定都市に移行することに伴い、相模原市内の整備箇所を計画から除外するとともに、地元調整の状況などを踏まえ、新たに事業化検討箇所を追加するなど、見直しを行いました。

●平成24年3月改定

東日本大震災を踏まえ、災害から県民のいのちを守るための情報収集・提供の強化を図る新たな取組みや、地元調整の状況などを踏まえた事業化検討箇所を追加するなど、改定を行いました。

●平成28年3月改定

本県の道路を取り巻く状況の変化に、より効率的・効果的に対応するため、計画の見直しを行いました。

〔状況の変化〕

- ・東京2020オリンピック・パラリンピックの開催
- ・国家戦略特区など3つの特区指定
- ・さがみ縦貫道路などの開通
- ・東日本大震災を踏まえた災害への対応力の強化
- ・道路施設の老朽化を踏まえた道路法施行規則の改正

※ 計画の見直し

本計画は、社会経済情勢の変化や地元の調整状況などを踏まえ、必要に応じて見直ししていきます。

目次

計画の位置づけ	1
計画の変遷	2
道路を取り巻く状況の変化と計画の考え方	3
道路整備計画	5
道路活用計画	11
道路維持管理計画	17
東京2020オリンピック・パラリンピックに向けての重点的な取組み	27
10年後期待される効果及び計画の具体化が望まれる自動車専用道路(県全域)	29
10年後期待される効果及び将来に向けて検討が必要な道路(三浦半島地域圏)	31
(県央地域圏)	33
(湘南地域圏)	35
(県西地域圏)	37

●道路活用計画の取組方針

道路をより使いやすくするため、既存道路を有効活用する4つの取組を進めます。

取組方針

I 交通流の円滑化

II 交通安全の確保

III 道路環境の改善

IV 利便性の向上

既存道路の有効活用

●施策体系

I 交通流の円滑化

- ① 交通のボトルネックの解消
- ② 通行可能車両の大型化への対応

II 交通安全の確保

- ① 歩行者・自転車の安全確保
- ② 交通事故防止対策の推進

III 道路環境の改善

- ① 省エネルギー化の推進
- ② 環境への影響の軽減

IV 利便性の向上

- ① 道路をより使いやすくする取組みの推進

●具体的な取組み

I 交通流の円滑化

① 交通のボトルネックの解消

幹線道路ネットワーク全体の機能や利便性を向上させるため、自動車専用道路の渋滞対策、交差点の改良、橋りょうの新設・架替、發遣等との立体交差化、狭隘箇所^{きょうがいしよ}の解消を進めることにより、交通のボトルネックの解消に取り組めます。

●自動車専用道路の渋滞対策

局所的な容量不足等により生じる渋滞箇所を改良するなどの対策を促進します。

- 東名高速道路（大和トンネル付近）
- 中央自動車道（小仏トンネル付近）
- 横浜新道 など



東名高速道路（大和トンネル付近）



中央自動車道（小仏トンネル付近）

●交差点の改良

交差点の改良により、交通流の円滑化を進めます。

- 県道26号（横須賀三崎）（初声小学校入口交差点）
- 県道23号（原宿六ツ浦）（鎌倉女子大前交差点）
- 国道134号（鎌倉高校駅前交差点）
- 県道54号（相模原愛川）（高田橋際交差点） など

施工前



交差点の改良

施工後



● 橋りょうの新設・架替（鉄道等との立体交差化含む）

河川に架かる橋りょうの整備や鉄道等との立体交差化を進めます。

- （郡）腰越大船線（大船立体）
県道 54 号（相模原愛川）（馬渡橋）
県道 60 号（厚木清川）（御門橋） など



橋りょうの新設



鉄道との立体交差化

※ 橋りょうの新設・架替、鉄道等との立体交差化の取組み箇所の一部は、道路整備計画の整備箇所との再掲です。

● 狭隘箇所の解消

道路幅員が狭く通行の支障となっている箇所や、地形等の制約により見通しが悪く視距が不足する箇所の拡幅などにより、狭隘箇所の解消に取り組みます。

- 県道 215 号（上宮田金田三崎港）
県道 76 号（山北藤野）
県道 739 号（真鶴半島公園） など



狭隘箇所の解消

② 通行可能車面の大型化への対応

県土構造の骨格となる「さがみ縦貫道路」が開通し、今後、「新東名高速道路」などの開通を見据え、産業活動に伴う物流機能の強化を図るため、インターチェンジにアクセスする道路などについて、最大 25t までの車面が許可なく通行することができる道路（重さ指定道路）に指定できるように、橋りょうの補強を計画的に進めます。

Ⅱ 交通安全の確保

① 歩行者・自転車の安全確保

● 歩道の整備

高齢者や障がい者など、誰もが自らの意思で自由に移動し、積極的に社会参加することができる社会基盤の整備として、幅の広い歩道や段差のない歩道の整備を進めます。

- 国道 134 号
県道 63 号（相模原大磯）
県道 72 号（松田国府津）
県道 75 号（湯河原箱根仙石原） など

施工前



幅の広い歩道の整備



施工後



● 自転車道の整備

自転車道の整備により、自転車利用者の安全・安心の確保を図ります。

- さがみグリーンライン自転車道
（海老名市河原口～寒川町一之宮）

■ 実施計画（2016～2025 年度）

自転車道の整備	
	10 km



自転車道の整備

② 交通事故防止対策の推進

交通管理者と連携し、ドットライン[※]を設置するなど交通事故の防止対策を進めます。

※ドットライン：車線の内側に太い点線を設置して車線を狭く見せることにより、ドライバーが車の速度を無意識に下げるようにする対策です。



交通事故防止対策

Ⅲ 道路環境の改善

- ① 省エネルギー化の推進
- LED 照明灯への転換
県が管理する道路照明灯について、省エネルギー化や環境負荷の低減に資するLED道路照明灯への転換を進めます。
転換にあたっては、既設水銀灯や老朽化したナトリウム灯の更新にありせて行っています。
- ② 環境への影響の軽減
- 歩道の透水性舗装の整備推進
地下水源養、街路樹の育成環境改善、道路排水の流出軽減など、路面に降った雨水を地中に浸透させる機能を持つ透水性舗装を進めます。

- 街路樹の整備推進
主に都市部における良好な公共空間の形成、沿道における良好な生活環境を確保するため、街路樹の整備を進めます。

Ⅳ 利便性の向上

- ① 道路をより使いやすくする取組みの推進
スマートインターチェンジ、道の駅、分かりやすい道路案内標識の整備など、道路をより使いやすくする取組みを進めることにより、地域の活性化を図ります。
- スマートインターチェンジの整備
地域の玄関口となり活性化を促すため、
（仮称）綾瀬スマートインターチェンジ整備を推進するとともに、市町が進めるスマートインターチェンジの整備を促進します。



（仮称）綾瀬スマートインターチェンジ 完成予想図

■ 取組み箇所				
名称(仮称)	自動車専用道路名	接続道路		
綾瀬スマート IC	東名高速道路	県道42号(腰沢座間厚木)		
厚木PAスマート IC	さがみ縦貫道路	市道		
山北スマート IC	新東名高速道路	町道		
秦野SAスマート IC	新東名高速道路	市道		
横須賀PAスマート IC	横浜横須賀道路	市道		

● 道の駅の整備促進

道の駅への設置・運営に取り組む市町村を支援し、整備を促進します。

- （仮称）サザン茅ヶ崎(茅ヶ崎市) など

※「道の駅」は、安全で快適な道路交通環境を提供することにより、道路利用者の交通安全に寄与するとともに、地域経済・福祉・観光・防災などの多様な機能を備え、地域振興や地域課題の解決を期待できます。

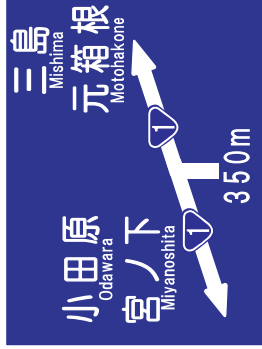


道の駅「蒲川」

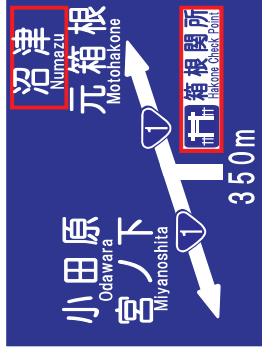
● 分かりやすい道路案内標識の整備推進

県内の自動車専用道路をはじめとした道路網ができており、東京2020オリンピック・パラリンピックの開催などにより、来訪者の増加が見込まれるため、国、市町村等と連携し、広域的な案内表記の確認・見直しや観光地表記など、道路利用者に分かりやすい道路案内標識の整備を進めます。

見直し前



見直し後



文学館入口
Bungakukan

文学館入口
Museum of Literary Ent.

道路案内標識の改善イメージ

東京2020オリンピック・パラリンピックの開催効果を県内に波及させるため、自動車専用道路やインターチェンジ・観光地などにアクセスする道路の整備を重点的に進めます。

自動車専用道路

- ① 新東名高速道路
- ② 横浜湘南道路
- ③ 高速横浜環状南線
- ④ 高速横浜環状北線
- ⑤ 高速横浜環状北西線
- 大和トンネル付近渋滞対策
- スマートインターチェンジ(綾瀬、横須賀PA、厚木PA、秦野SA、山北)

※スマートIC名は仮称です。

インターチェンジ・観光地などにアクセスする道路

- ⑥ (都) 横浜藤沢線
- ⑦ 国道129号(戸田交差点)
- ⑧ 県道603号(上相屋厚木)
- ⑨ (都) 久里浜田浦線
- ⑩ 三浦縦貫道路
- ⑪ 県道611号(大看板戸)
- ⑫ 南足柄市と箱根町を連絡する道路
- ⑬ (仮称) 連絡道路

その他の取り組み

分かりやすい道路案内標識の整備

来訪者の増加が見込まれるため、広域的な案内表記の確認・見直しや観光地表記など、道路利用者に分かりやすい道路案内標識の整備を進めます。

